

第2回 ICM 年次理事会に出席して

West Pacific 代表 谷口初美

平成30年5月29日～6月1日の4日間、第2回 ICM 年次理事会がハーグ（オランダ）の本部で開催された。理事は全員で13名：地域代表10名と Franka 会長、Mary 副会長、財務担当の Ingela は膝の手術後のため電話での参加となった。

本部は、5月25日情報のインフラ問題のため2ブロック離れた4階建てのビルの最上階に引っ越したばかりであった。Staff room と大小のガラス張りの meeting room、キッチン、roof テラスが備わり、一段と働きやすい環境を整えた。4日間の会議は、早朝からの President やグループとの Breakfast meeting で始まり、リーダーシップ研修とガバナンス、多くの案件の審議と報告、夕食も共にした意気投合した Board Meeting となった。

紙面の関係上、是非ともお知らせしたい情報5点を下記に述べる。

- ①地域会議：2017年の ICM の評議会で、ICM HQ(headquarter:本部)が地域会議及び ICM 大会を企画・運営することになった。地域も WHO の基準に則り、アジア太平洋地域は、3つの地域（West Pacific, South East, Eastern Mediterranean）となり、今年は、合同で開催するため中間地点のドバイを開催地としたが当地は物価高のため参加者数を約300名と推定し、会場は Mohammed Bid Rashid University of Medicine and Health Science となった。抄録数は締め切り前日まで70題（日本から7題）あり、100題以上を期待している。参加費は early bird で\$425 USD, 学生\$250 USD としている。
- ②第32回 ICM triennial Congress は、2020年6月21日～25日インドネシアのバリ島 Bali Nusa Dua Convention Center で開催される。抄録受付開始は、2018年12月1日から、評議会は、6月17-19日（2日半）Regional meeting は、6月17日5-7PM と予定されている。
- ③地域レポート：6地域からの成功例と課題が各地域の助産師会を通じて集約され報告された。成功例として ICM の standard に基づく助産教育、研修強化、助産師の自律、Twinning Project 等が上がり、課題として：出産の医療化、助産師主導型の出産の難しさ、助産師の減少、出産数の減少等であった。しかし、一番の問題は、言葉の障壁もさることながら各地域の ICM 会員の協会へのアクセスが十分取れない事が大きな課題である。また、先進国、発展途上国に限らず内容にそれほど差異がなかったことも驚きであった。出産の医療化に伴い、ICM は Lesley Page 博士（英）に出産のヒューマン化についての声明文書をお願いしている。

- ④ICM は、大変な財政難であるが、外部資金の獲得 (Sonofi Espoir, MacArthur, Bill and Melinda Gates, Laerdal, Johnson & Johnson, UNFPA) で ICM 本来の活動をアフリカ、メキシコ地域等で実践し成果を示している。
- ⑤ICM の 100 年史の編集を元 ICM 会長等 (Joyce Thompson, Joan Walker and Ann Thompson) が The Safe Motherhood Fund で手掛けている。



Board members と事務局長の Sally とリーダーシップ講師の Sharon テラスで